

動物園で創エネ

ズーラシアに太陽光発電計画

太陽光発電所設置に向けて絵はがきを販売する徳留佳之さん(右)(横浜市旭区で)

横浜開港150周年記念行事「開国博Y150」に関連して、横浜市旭区の「よこはま動物園ズーラシア」内に、太陽光発電所を設置しようという市民プロジェクト「ズーラシアおひさま市民発電所設置」が進められている。動物絵はがきを販売して250万円以上の資金を集め、家庭用冷蔵庫1台分の消費電力量を発電できる太陽光パネルを購入する計画だ。メンバーらは「エコエネルギーのシンボルを作り、Y150の成果を次世代につなげたい」と意気込んでいる。

絵はがき売って資金集め

ヨコハマ
開港150年

この計画は、動物園に隣接する開国博Y150の会場で、7月4日にオープンする「ヒルサイドエリア」で行われる約190の市民プロジェクトの一つ「創エネ」に挑戦の一環。市民13人のグループ「創エネ市民プロジェクト」が進めている。

グループの代表で、旭区中沢のフリー編集者徳留佳之さん(52)は「省エネだけでなく、新たなエネルギーをつくり出す『創エネ』を市民の力で実現させたい」と思い、出展を決めたという。太陽光発電所となるのは、ミニシアフリカオットセイが飼育されている「海獣舎」の見学者用建物。屋根の3分の2(約40平方メートル)に、太陽光発電のパネル20〜30枚を取り付けて、1日3〜5キロワットを発電し、海獣舎の水槽ポンプに使用するという。



市民グループ「エコの象徴に」

設置費用を捻出する絵はがきには、グループのメンバーで、同区在住のプロカメラマン佐藤幸稔さん(51)が約2か月かけて撮影したズーラシアの動物たちの写真を使用。レッサーパンダやホッキョクグマなどが寝そべったり、木に登ったりしているほほ笑ましい写真で1セット6枚を500円で販売。インドゾウと世界4大珍獣のオカピが入った「オカゾウセット」と、レッサーパンダとスマトラトラの入った「パントラセ

ット」の2種類がある。徳留さんは「これまでの横浜150年だけでなく、これから先の150年も持続可能なエネルギーをつくりだそう」とインターネットで呼びかけるなどして、昨春から活動を開始。今年1月末から「ズーラシアおひさま市民発電所設置プロジェクト」ホームページ(<http://ec-pr.net/zoosun>)で絵はがきの販売を始めた。7000セットを用意し、ズーラシア内ハーゲンダッツショップや同区本村町のCDショップ「福屋」などでも販売している。



僕ら6枚500円

ヨロシク♡

かわいらしい動物の姿を写し、販売している絵はがき

